

サッカーにおけるカウンター攻めの失点シーンについての研究 - 2014年ブラジルワールドカップに着目して -

岡野 大樹 (競技スポーツ学科 スポーツ情報戦略コース)
指導教員 望月 聡

キーワード：カウンター, ボール奪取ゾーン, FIFA ワールドカップ

1. 緒言

近年,日本のサッカーはヨーロッパに通用してきているといわれている.その理由に挙げられるのがFIFAワールドカップへの5連続出場やJリーガーの海外移籍が多くなっておりヨーロッパの名門チームで活躍する選手も出てきている.しかし,ヨーロッパに圧倒して勝つことはできるのかと言われれば「YES」と答えることはできない.しかし強豪チームも負けることがある.パスを繋ぎ慎重に攻めて来る強豪にどのようなプレーをすれば勝てるのか,弱いチームはいろいろな作戦を立てている.その中の多くがカウンターサッカーだ.ではカウンターをされるリスクを減らし味方チームがカウンターをするチャンスを作ることができればヨーロッパの強豪チームとも互角に戦うことができるのではないかと考えこの研究を進めた.このように安定したサッカーを展開していくチームが警戒しなくてはならないのがカウンターである.そのためにカウンターの性質を分析し結果を出して本大学サッカー部・他サッカー関係者にフィードバックすることを目的とした.

2. 研究方法

2014年FIFAワールドカップブラジル大会全64試合を対象とする.本大学サッカー部を対象にインタビュー調査を行った.2014年FIFAワールドカップブラジル大会全171点の内カウンターで点を取った試合を集計しカウンターが成功した時間帯やその点が試合にどの程度影響を及ぼしたか両チームのFIFAランク・ボール支配率などを比較する.サッカーコートを四分分割しカウンターが始まった場所を集計した.カウンターをするチーム側のゴールを①ゾーンとしされる側に向かって②ゾーン・③ゾーン・④ゾーンと設定した.

3. 結果と考察

世界ランクが相手より高いチームがカウンターを使った試合が67%,カウンターが成功した試合の勝率は9割近くあるとい

う結果になった.ボール奪取ゾーンは④ゾーンが1番少なく,カウンターを成功させるためには相手ディフェンスのラインを上げさせることが必要になるといえる.世界ランクが高くなるほどカウンターを多く成功させていることから,弱いチームが強いチームに使うものという考えが変わってきた.図1から読み取れるようにカウンターの成功する時間帯は後半76~90分が特に多かった.逆に前半1~15分は0%,後半1~15分は4%と試合開始にはカウンターが成功しにくいことがわかった.

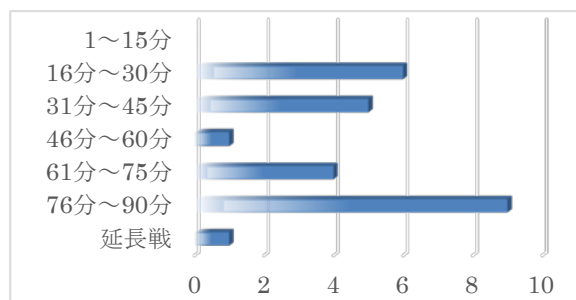


図1 カウンターによる失点の時間帯

インタビューから考察する.カウンターを増やすことによって,チームにピンチを作っているという考えにいたった.カウンターを多くするためには,運動量が必要となり守備に力を入れることが大切だ.ゴールキーパーがディフェンスのポジション指示を的確にして常に最悪のケースを考えることが必要となる.

4. まとめ

監督・コーチがサッカーを理解することで育成期間を向上させる.常に進化し続けるヨーロッパサッカーに勝つためには,最先端を行き日本の技術向上に力を注がなくてはならないという結論に至った.

5. 引用・参考文献

公益財団法人日本サッカー協会
<http://www.jfa.or.jp/index.html>